

2022年度 日本工学院専門学校											
放送芸術科											
映像リテラシーA 2											
対象	1 年次	開講期	後期	区分	必修	種別	講義	時間数	30	単位	2
担当教員	笹本 篤			実務経験	有	職種	映像制作全般				
担当教員紹介											
放送業界で編集・後処理業務に従事していたIMAGICAほか											
授業概要											
この科目を受講する学生は、映像制作やテレビ放送に関する基礎的な知識・技術のノウハウを得ることを目的とする。具体的には、テレビ放送の成り立ちから地デジ化、4K放送、5Gへの技術・視聴環境の変遷や、カメラ・照明・音声などの撮影現場に必要な、色の知識と基礎的な機材知識の習得を目的とする。後期では前期に習得した知識の応用となる現代の映像制作環境の知識・理解を深める。											
到達目標											
この科目では、学生が、日々生活している中で触れている映像（テレビ・WEBなどあらゆる媒体）がどのように現在の形になったのかを知ること、現在の技術が多くの技術者や映像制作者のノウハウの蓄積で今に至ることを理解することが目標とする。放送（映像）業界においてどのような仕事が存在するのか、自身がどういった分野に興味・関心があるのかを把握するきっかけとなることを期待している。											
授業方法											
この授業では、ZOOMによるオンライン授業形態で行う 教員は予め用意した授業スライドに書き込みながら説明し、学生はノートをとる。 書くことで脳を働かせ、必要箇所をまとめる習慣をつける。また、全ての技術はそこに至る目的や経緯がある。 「なぜ そうなったのか？」を当時の時代背景を意識し、考えさせるように質疑を繰り返して、知識として残るように授業を進める。											
成績評価方法											
試験	80％ 期末試験の点数により評価										
課題	20％ 各授業後に行われるアンケートフォームを利用した課題										
平常点（積極的な授業参加の姿勢）を加点評価する											
履修上の注意											
ノートは各自用意し、必ず授業内容のメモをとる。 現在の放送（映像）業界のリアルタイムな状況も考慮して授業を展開するため、自身でも映像視聴環境を今一度見つめ直し、身近な物事として考えてほしい。 理由のない遅刻や欠席は認めない。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。											
教科書教材											
各回 必要に応じてレジュメ・資料を配布する。											
回数	授業計画										
第1回	後期授業内容の告知と前期の復習/ 小テストや質疑により授業理解度を確認する										
第2回	衛星放送の成り立ちと仕組み/衛星放送事業が必要な理由と国内・海外の取組事例を理解する										
第3回	テレビとその他の映像媒体の動向/定額動画配信とテレビ事業との違いや特徴理解										
第4回	放送業界の将来像/放送と通信の垣根がなくなりつつある現場を知り、放送業界の将来を考察する										
第5回	映像信号について①/アナログ信号とデジタル信号の違いと特徴を理解する										

2022年度 日本工学院専門学校	
放送芸術科	
映像リテラシーA 2	
第6回	映像信号について②/SDI信号とIP伝送に関する理解と現在の放送における設備機器の特徴を理解する
第7回	撮影現場②/映像制作の今の現場の様子を専門誌から読み解く
第8回	撮影現場②/映像制作の今の現場の様子を専門誌から読み解く
第9回	撮影現場③/映像制作の今の現場の様子を専門誌から読み解く
第10回	特別講義①/映像業界で働く方をゲストに招き、その仕事や知識、経験を学生へ伝え、気づきを得る
第11回	特別講義②/映像業界で働く方をゲストに招き、その仕事や知識、経験を学生へ伝え、気づきを得る
第12回	特別講義③/映像業界で働く方をゲストに招き、その仕事や知識、経験を学生へ伝え、気づきを得る
第13回	期末テスト対策授業/後期を振り返り、知識の抜けがないようにおさらいをする
第14回	期末テスト/テストによって理解度を確認する
第15回	期末テスト 振り返り/テストを振り返ることで理解を深め、2年次に向けて確実に知識を身につける、全体のまとめ